



五月二十七日 夕刊
(可認物便郵三第日八月一十年二十正六)

白柄剣風連
大島多慶夫作
井川洗滌書
村岡春映書

警官も巻き添えの

債券魔の公判

一ヶ月の生活費は約二千圓だと嘯く
懲役四年求刑さる
少額の後、富澤検事は多数の人々から多額の金を絞り上げ、社会に及ぼす影響は甚大である...

若年二十六歳にして平市及び濱三郡を始め茨城県から東京と股にかけ十数萬圓の詐欺を働いた「稀代の債券魔」市川仲間町債券仲介業横山久三(三〇)の公判は二十六日傍聴席立の餘地なく午後一時から平支部中谷裁判長、千葉護野兩判事陪席、富澤検事立會、門傳辯護士列席の下に開廷裁判長は債券買がもうけ口の早道だとインチキな宣傳をして事情に通ぜぬ者等に投資させ證據金を捲き上げや稱取りをやつて居た事は本真かとつめれば被告は「稱取りはして居ましたがそれは犯罪でない」と信じて居ましたと態度なく中立するのを裁判長は取引所員以外は稱取りは出来ぬと流石に頭と盛かたので流石に頭うなだれ

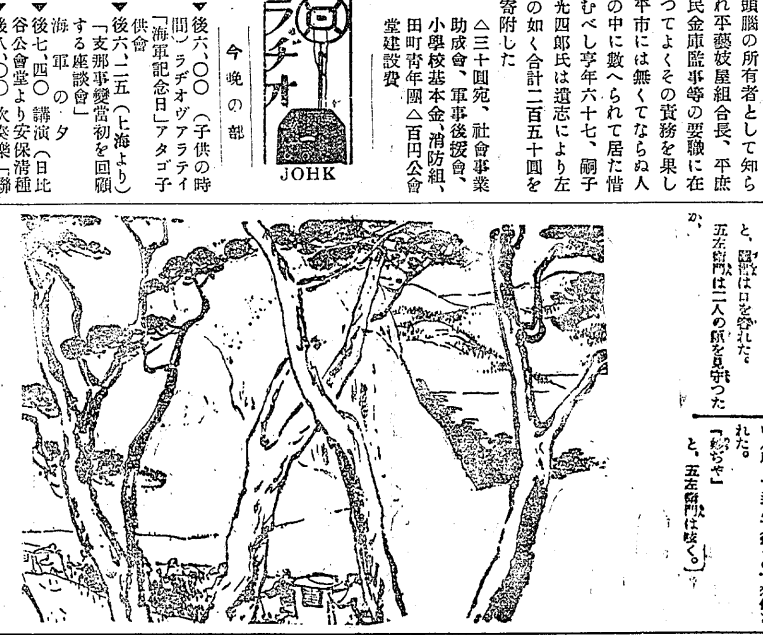
長走優勝者
本日の海軍記念日に決行した平商の平一草野間一萬米マラソン競走優勝者左記の如くである(一等のタイム五分九秒九)
四甲渡邊博 同山家博
同坂本向平 三甲鈴木健治 五乙江尻庄三 四甲久保清次 三乙阿部浩 三甲高橋重二 乙橋本免己 五乙野口隆雄

列車妨害
大野村大宇戸田宇北野作生れ大浦村大宇狐塚宇原六三農志賀善徳治(東)が泥酔して鐵道線路に小石十七個を積み重ね覆轍を圖つた事件の公判は二十六日午前十時から平支部で中谷裁判長、千葉護野兩判事陪席、大島検事、門傳辯護士立會で開廷、検事から懲役二年を求刑されたが言渡しは來月七日である

海軍記念日
平市では今日二十七日海軍記念日をとし松ヶ岡忠現碑で午後四時から記念式典を挙げて、終つて田町海軍一等兵曹藤野哲氏を同所尼子亭に招き實談を聞いた

箱根山中
四八八
「たしかに藤野君は山下にまつて居る事は明かでないが藤野君の遺骨が箱根に入り込んで居るとは、これも藤野君の遺骨かも知れない」

明日の部
後三〇〇 婦人の時間
後六〇〇 運糧車試
後八〇〇 小僧コドモ
後六二五 講演「我が國のロジニスト」元運糧組員赤松虎雄
後七四〇 講演「我國工業の目指す處」大河内正敏
後八〇〇 浪花節「阿部重助」浪花幸吉
後八三〇 長唄「岸の柳」岸藤五郎外
後八四七 運糧ラヂオドラマ「東郷元帥」ラヂオトランセック新劇團



「たしかに藤野君は山下にまつて居る事は明かでないが藤野君の遺骨が箱根に入り込んで居るとは、これも藤野君の遺骨かも知れない」
「藤野君は山下にまつて居る事は明かでないが藤野君の遺骨が箱根に入り込んで居るとは、これも藤野君の遺骨かも知れない」



### 不滅のシンボル

群司次郎正  
大津 遊子

第二十四回  
感 想  
「感は、後でそんなことまで思  
いて見せたりした。  
『いつまでも、感して、感ら  
ないで』  
二人はまた、手を握り合  
った。二人の胸には、何物もな  
かった。  
それから、こんな事もあった。  
これも感の感として、感も  
鮮やかにあり、感ひ出す  
ことのできる、あるシートの二つ  
だった。  
それは、感のことか、か  
一晩の感の二月だ。北



「感は、後でそんなことまで思  
いて見せたりした。  
『いつまでも、感して、感ら  
ないで』  
二人はまた、手を握り合  
った。二人の胸には、何物もな  
かった。  
それから、こんな事もあった。  
これも感の感として、感も  
鮮やかにあり、感ひ出す  
ことのできる、あるシートの二つ  
だった。  
それは、感のことか、か  
一晩の感の二月だ。北

御贈答に...  
**鯉節**  
美味  
鯉鹽から  
魚問屋  
志賀盛榮商店  
(番三一三話電) 目丁四市平  
三井タシク  
番五八六話電 二平

**吉田眼科醫院**  
平市紺屋町電話八六番  
雄久田吉士學醫  
良酒と洋食  
經濟本位  
レ스토랑  
平會館  
電話624

御料理  
是非！御試食下さい  
平市町紅小路  
**むぎとろ**  
さつき  
三番隣り

**中野齒科醫院**  
院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次  
院醫 日本齒科 醫學士 西川 誠  
一齒科一般 保存科補綴科 矯正工科  
齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科  
一口腔外科 レントゲン科

**是非！**  
御贈答には御用命下さい萬事便  
利な御相談に應じます  
公債、債券、質物一般  
**三井質店**  
平市 電話六〇六番

**安流丸**  
梅毒 瘡毒 疥癬  
痔瘻 出血 腫瘍 痔疾  
便秘 動脈硬化症 高血圧  
中風 神經痛等(特効あり)  
定額 毎月 四円 半年 廿円  
平市町  
**阿部薬舗**

御料理 一良久  
平市町(元照よし跡)  
電話三九九番

父重助儀帝大病院ニテ加療  
中ノ處藥石効無ク二十六日  
午後五時逝去致候間此段謹  
告仕り候  
追而送葬ノ儀ハ來月五月二十九日二時  
自宅出棺長壽寺ニ埋葬可仕候  
昭和十三年五月二十七日  
親 主 鈴木 光 四郎  
親 戚 草野 甚 一 郎  
總 代 上 田 賀 定 平 郎  
友 人 青 沼 鋒 太 郎  
佐 藤 庄 太 郎  
諸 橋 久 太 郎  
野 崎 滿 藏  
總 代 鈴木 康 平  
鈴木 康 平

有責任信用組合平庶民金庫  
庫監事鈴木重助殿五月二十  
六日午後五時東京帝大病院  
ニテ逝去被遊候間此段謹告  
申上候  
尙御葬送の儀は來月五月二十九日午後  
二時自宅出棺長壽寺に埋葬可被遊御連  
に御座候  
昭和十三年五月二十七日  
有責任  
信用組合 **平庶民金庫**

**御會葬御禮**  
昭和十三年五月二十七日  
福島縣石城郡下小川村上平  
嗣子 羽岡 千壽